

2012年(平成24年)7月11日(水)

世界の鼓動

田中 均

自律的なドイツ

支援の前提として、徹底的な財政規律をギリシャなどの問題国に求めている。

これまでベルリンを訪問した際は、ベルリンの壁跡など、統一後のベルリンを感じることが多かった。今回は第二次大戦前のドイツの栄華をしめすペルガモン考古学博物館を訪れた。古代ギリシャ・ローマ、バビロンなどの遺跡をドイツの考古学者が19世紀末に時間をかけて発掘し、丹念に修復し復元された。室内で見る遺跡は庄巻である。気の遠くなるような修復作業を想像し、ドイツ人の、このわりが強く、断固「わが道を行く」特性を感じざるを得なかった。



画・onyx

冷戦時の概念を脱して

自律性の強さゆえであろうか。

ドイツは、敗戦国として復興し西側の一員として似通った道歩んだ日本とは、両独統一後、異なる道を歩みだした。1995年に憲法の解釈を変え、安保理決議がある場合、また人道上の必要がある場合には単独でも、連邦軍を海外に派遣することを可能にした。

今やアフガニスタンにおける治安維持作戦での最大の兵員派遣国である。一方、ドイツは米国のイラク攻撃に終始反対を貫いた。ブッシュ前米大統領は、米国とは常に一線を画してきたフランスの反対はともかく、統一に向けて大きな支援をしたドイツが反対をするのは許せない、と述べ、米独関係

は極めて悪化した。

また、ドイツ的経済運営は英米的経済運営と異なる面も多い。徹底的な財政規律に加え、職人を育てる独自の職能制度などをかたくなに守り、メルセデスベンツやBMWなど製品の質の高さを実現し、経済の強さを維持してきた。ドイツから学ぶべきものはない

か。日本はもう少し自律的であってもよいのではないか。政治安全保障の面ではEUや北大西洋条約機構(NATO)という集団的機構に在るドイツとは異なり、日本は2国間の同盟関係にある米国の影響力をより強く受けざるを得ない。また飛躍的に台頭する中国を隣国にもつ日本は米国との関係の強さを失うわけにはいかない。

経済的には皆保険制度や所得格差の少なさ、企業に対する忠誠心など英米的経済運営とは異なる特色を日本はもっている。また、いつまでも憲法の制約を言い、いまだに「集団的自衛権」という冷戦時代の概念から抜け出せないのは時代錯誤であり、この点ドイツの例に倣うべきである。

今回の欧州債務危機に際して、本来ドイツの台頭に最も神経を尖らせてきたポーランドが、ドイツはもっと指導力を発揮すべきであると述べているが、東南アジア諸国も日本が東アジア地域の協力にリーダーシップをとることを望んでいるのである。

日本の東アジアにおける能動的外交が対米関係を損ねることとなるはずもなく、むしろ受動的対応を繰り返しているうちに日本の存在感はどうぞん薄れていくことに留意すべきだろう。

(たなか・ひとし) 日本総研国際戦略研究所理事長